

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 大学家畜衛生連携事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫指導係 電話番号：058-272-1111(内4160)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,116 千円 (前年度予算額：2,116 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,116	0	0	0	0	0	0	0	2,116
要求額	2,116	0	0	0	0	0	0	0	2,116
決定額	2,116	0	0	0	0	0	0	0	2,116

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

平成26年3月20日、岐阜県と岐阜大学の間で「家畜衛生に係る教育及び防疫等の連携に関する協定」を締結した。平成29年には、岐阜大学敷地内へ中央家畜保健衛生所が移転し、教育・学術研究及び家畜防疫体制の促進・強化に向け連携と交流を行っている。

学生インターンシップの積極的な受入れ、基礎研究のための農場との協力体制構築など、連携を活かし体制整備を行っている。

公務員獣医師の魅力発信の向上、教育現場での活用のため、剖検や現場業務の撮影・記録を検討する必要がある。また、農場への研究結果の還元について、より効果的な方法を検討する必要がある。

(2) 事業内容

岐阜大学との協定に基づき、県と岐阜大学が連携して次の事業を行う。

- 家畜衛生の教育に関すること
- 家畜疾病等の学術研究に関すること
- 家畜の防疫・保健衛生対策に関すること
- その他、両者が必要と認めること

(3) 県負担・補助率の考え方

県の全額負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	26	研修会講師報償費
旅費	146	打合せ
需用費	1,843	消耗品、燃料費、印刷製本費
役務費	67	通信費
使用料	34	調査研究のための高速道路代 (ETC)
合計	2,116	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2023～2027）
 - 2 健やかで安らかな地域づくり
 - (2) 安らかに暮らせる地域
 - ⑥災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- ・「ぎふ農業活性化基本計画」(R8～12)（仮称・令和8年3月策定予定）
 - 基本方針4 安心できる農畜水産業と農村の環境整備
 - 4 生産を脅かすリスクへの対応
 - ①家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

- ① 家畜衛生の教育に関すること：獣医学生や家畜防疫員に対する知識向上等のための講義・研修を実施する。映像化など手法の向上を検討する。
- ② 家畜疾病等の学術研究に関すること：家畜疾病の診断方法の確立、家畜防疫体制や生産性の向上に繋がる調査研究を実施する。
- ③ 家畜の防疫・保健衛生に関すること：防疫体制の確立や農場における指導体制の整備を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

事業目標に対する具体的な方策は、人材育成、疾病の調査や診断方法の確立、農場における体制整備に関する事など制度設計に関する事が主目的であり、具体的な指標を設定することができない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 4 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 岐阜大学における講義、研修生受入れを行い、獣医学生や県家畜防疫員に対する知識向上を図った。 牛の生産性低下に繋がる呼吸器疾患、消化器疾患の病原体について、県内における分布状況、薬剤耐性の調査を行い、農場への情報還元による衛生対策の強化を図った。 カメラトラップによる農場周辺の野生動物の行動調査を行い、効果を見える化することで、野生動物対策の確立や農場指導の強化を図った。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和 5 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 岐阜大学における講義、研修生受入れを行い、獣医学生や県家畜防疫員に対する知識向上を図った。 岐阜大学附属岐阜フィールド科学教育研究センターと連携し、高病原性鳥インフルエンザの発生を想定した演習を実施し、防疫体制の強化を図った。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和 6 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 岐阜大学における講義、研修生受入れを行い、獣医学生や県家畜防疫員に対する知識向上を図った。 豚の生産性低下に繋がる消化器疾患の病原体について、薬剤耐性の調査を行い、農場への情報還元による衛生対策の強化を図った。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価)	<p>3 全国では、豚熱の発生継続、過去最大規模となる高病原性鳥インフルエンザ発生があり、農場におけるより強固な防疫体制の構築と、それを担う獣医師の育成・教育は重要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 養豚業において生産性を低下させる下痢症や呼吸器病、大きな損失を生む牛伝染性リンパ腫などに関する調査研究を行う必要がある。 家畜衛生の教育に関するより効果的な体制整備の検討と、公務員獣医師の確保。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 岐阜大学を中心とした大学とのネットワークを構築し、農場の各種疾病に対する家畜防疫体制の強化に繋がる調査を行い、より高度な防疫体制を整えた農場とし、安心安全な畜産物の供給を目指す。 教育の充実、効果向上のため、体制及び手法を検討する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	<p>【〇〇課】</p>
---	--------------